

授業科目名 <英訳>	持続型生存基盤研究の方法 An Interdisciplinary Approach to Sustainable Humanosphere				担当者所属・ 職名・氏名	東南アジア地域研究研究所 教授 河野 泰之					
配当 学年	1,2回生	単位数	2	開講年度・ 開講期	2017・ 後期	曜時限	木1	授業 形態	講義	使用 言語	日本語及び英語
[授業の概要・目的]											
主として英文のレビューペーパーを題材として、農学や生態学、情報学などの自然科学をベースとして持続型生存基盤研究にアプローチする場合に有用な基礎知識と基本概念の理解を目指す。											
[到達目標]											
持続型生存基盤研究に関わる理論を理解する。											
[授業計画と内容]											
以下のような課題について、1課題あたり1～2週の授業をする予定である。ただし学習の理解度に応じて、変更される場合がある。また受講生のニーズに応じて英語での講義とする場合がある。											
<ol style="list-style-type: none"> 1．水循環と水資源の利用・管理 2．土地利用変化のメカニズム 3．複雑性と生態系管理 4．生態系のレジーム・シフト 5．適応的管理（Adaptive Management） 6．人と社会のモデリング 											
[履修要件]											
特になし											
[成績評価の方法・観点及び達成度]											
出席状況と授業中の討論に対する姿勢により評価する。											
[教科書]											
授業中に指示する 適宜、資料を配布する。											
[参考書等]											
（参考書） 授業中に紹介する											
[授業外学習（予習・復習）等]											
適宜、指示する。											
（その他（オフィスアワー等））											
積極的な授業参加、発言を希望する。 オフィス・アワーは特に定めないが、講義時間外に直接話をしたい学生は、（kono@cseas.kyoto-u.ac.jp）までメールすること。											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

授業科目名 <英訳>	現代中東・北アフリカ地域論 Contemporary Middle East and North Africa				担当者所属・ 職名・氏名	アジア・アフリカ地域研究研究科 教授 小杉 泰					
配当 学年	1,2回生	単位数	2	開講年度・ 開講期	2017・ 後期	曜時限	火5	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
【授業の概要・目的】											
<p>現代の中東・北アフリカについて、政治・社会・経済、地域システム、思想潮流などに着目して、動態的に考察します。この地域が熱帯乾燥域であり、またイスラームの登場以来独自の発展を遂げてきたことを重視し、メタ地域である「イスラーム世界」の一部をなすことも考慮に入れて、地域の実態と動態を学んでいきたいと思えます。</p> <p>なお、本講義は、研究科附属のイスラーム地域研究センターにおける研究プロジェクト「現代中東地域研究」と連動しています。</p>											
【到達目標】											
<p>中東地域研究の専門家として、現代の中東・北アフリカについて、歴史と現代を総合する地域認識を獲得し、学術的な基礎を身につけ、また自分のテーマに応じた必要な知識を探索できるようになることを目標とします。</p>											
【授業計画と内容】											
<ul style="list-style-type: none"> ・講義を中心として、一部でゼミ方式で発表と討議をおこないます（組み合わせ方は、出席者の人数によって調整します）。 ・講義では、現代の中東・北アフリカをとらえるための基本概念や方法論的な枠組み、現代世界の中にこの地域を位置づけるために必要な国際関係学的なアプローチ、19～21世紀におけるイスラーム世界の史的展開、中東・北アフリカという「地域」の生成、熱帯乾燥域と産油国経済、アラブ民族主義・イスラーム復興・アラブ民主化運動の主要な動向などを学びます。 ・ゼミの回では、各自の研究テーマに合わせた「知的インフラ構築」の課題（主題年表の制作など）に主体的に取り組んでいただきます。 											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
通常点および課題評価											
【教科書】											
<p>小杉 泰 『現代イスラーム世界論』（名古屋大学出版会）</p> <p>小杉 泰 『9・11以後のイスラーム政治』（岩波書店）</p>											
【参考書等】											
<p>（参考書）</p> <p>小杉 泰 『イスラーム 文明と国家の形成』（京都大学学術出版会）</p> <p>小杉 泰 『現代中東とイスラーム政治』（昭和堂）</p>											
----- 現代中東・北アフリカ地域論 (2)へ続く -----											

現代中東・北アフリカ地域論 (2)

他の参考文献・資料は、必要に応じて、授業中に紹介または配布します。

(関連URL)

<http://www.asafas.kyoto-u.ac.jp/kias/> ((イスラーム地域研究センター))
<https://www.asafas.kyoto-u.ac.jp/global/staff/kosugi/> ((小杉泰研究室))

[授業外学習(予習・復習)等]

非常に広い分野をカバーしますので、自分の研究テーマと関連させながら、広く文献・資料を読むようにして下さい。

(その他(オフィスアワー等))

「熱情」をもって履修してください。熱気あふれるクラスにしましょう。

アラビア語は必須ではありませんが、内容上、初歩でも習得していると、理解がっそう広がります。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

授業科目名 <英訳>	地域研究・文理融合論 Non-Modern Approaches in Area Studies	担当者所属・ 職名・氏名	東南アジア地域研究研究所 教授 藤田 幸一
---------------	---	-----------------	-----------------------

配当 学年	1-5回生	単位数	2	開講年度・ 開講期	2017・ 前期	曜時限	火3	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
----------	-------	-----	---	--------------	-------------	-----	----	----------	----	----------	-----

【授業の概要・目的】

本講義のねらいは2点ある。講義の前半では、言うは易く行うは難しいのが常の文理融合研究を取り上げる。具体的事例として、1つはインド・バングラデシュの地下水灌漑とエネルギー、食料生産の総合的分析、もう1つはタイ、ミャンマーの天然ゴム産業における農業生産と加工・マーケティングの全過程について、技術、制度、社会経済の総合的分析を取り上げる。講義の後半では、フィールドワークの過程で必要となる農産物の生産費、所得分析を取り上げる。生産費分析はそれ自体、非常に難しい理論的課題を含んでいるが、それだけに、それが真に理解できたなら、その背後に隠れている技術、制度、社会経済の間の複雑な相互関連が総合的に理解できたことになる。本講義では、アジア各地での具体的な農産物生産費の推計方法の検討を通じて、東アジア、東南アジア、南アジアの地域性の一端が自然に理解できるよう、配慮する。

【到達目標】

文理融合的研究のキーワードは、生態、技術、制度、政策、社会、経済などであり、それらの要素の相互関連性の詳細な分析の上に、総合的に把握することが不可欠であり、實際上、一朝一夕に体得できるものではない。ディシプリンに基づく鋭い分析と、それとは異質な総合的理解が両方、必要とされるからである。本講義は、具体的事例を通じて、どのような分析とそれに基づく最終的な総合理解が必要かを学ぶ場を提供する。また、地域研究では、以上のような文理融合研究を通じて到達した地域像を比較検討し、複数の地域がどういう個性をもっているかを理解することが肝要となる。農産物生産費論はそのための道具である。

【授業計画と内容】

1. はじめに：講義のねらいと予定
2. インド・バングラデシュの生態環境と農業
3. インド・バングラデシュの地下水灌漑の拡大と灌漑水の市場取引
4. インド・バングラデシュの電力政策と地下水灌漑、地下水市場
5. 天然ゴムの歴史と生態環境、技術
6. 天然ゴム産業振興のための制度・政策
7. タイとミャンマーの天然ゴム産業
8. 農産物生産費論 : 経常投入財
9. 農産物生産費論 : 家畜、農業機械
10. 農産物生産費論 : 労働
11. 農産物生産費論 : 土地
12. 農産物生産費論 : 金融

【履修要件】

特になし

地域研究・文理融合論 (2)

[成績評価の方法・観点及び達成度]

講義への出席、討論への参加度合いで総合評価する。

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学習(予習・復習)等]

特になし。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワー：随時

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

授業科目名 <英訳>	持続型生存基盤と環境 Sustainable Humanosphere and Environment				担当者所属・ 職名・氏名	アジア・アフリカ地域研究研究科 准教授 D'SOUZA, Rohan Ignatious					
配当 学年	1-5回生	単位数	2	開講年度・ 開講期	2017・ 後期	曜時限	火5	授業 形態	講義	使用 言語	英語
[授業の概要・目的]											
Debating Future-Natures: a study of essays on Climate Change, Global Warming and Anthropocene Politics. This course will discuss some of the main essays and writings that have set the tone and context for our understanding of Climate Change, Global Warming and Anthropocene politics as linked worlds involving science, politics and meanings.											
[到達目標]											
TBA											
[授業計画と内容]											
Main Readings: 1) Libby Robin, Sverker Sorlin and Paul Warde (ed.), The Future of Nature, Yale University Press, 2013. 2) Bill McKibben (ed.), The Global Warming Reader, OR Books, 2011.											
[履修要件]											
特になし											
[成績評価の方法・観点及び達成度]											
TBA											
[教科書]											
授業中に指示する											
[参考書等]											
(参考書) 授業中に紹介する											
[授業外学習(予習・復習)等]											
TBA											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

授業科目名 <英訳>	アジア比較政治論 Comparative Asian Politics	担当者所属・ 職名・氏名	アジア・アフリカ地域研究研究科 教授 中溝 和弥
---------------	--	-----------------	--------------------------

配当 学年	1-5回生	単位数	2	開講年度・ 開講期	2017・ 後期	曜時限	金3	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
----------	-------	-----	---	--------------	-------------	-----	----	----------	----	----------	-----

【授業の概要・目的】

比較政治学の基礎を、南アジアを中心とするアジア諸国の事例を通じて学ぶことを目的とする。扱うテーマは、比較政治学の方法論、ナショナリズム論、政治体制論、民主主義論、市民社会論、政党政治論などの比較政治理論に加え、これらを応用する形で南アジア、特にインド政治について学習する。

授業はゼミ形式で行い、受講生が課題文献を正確に読解し、これに基づいて自らの研究課題に応用していくことを目指す。

【到達目標】

本演習を履修することにより、主に次の二つを習得することを目指す。

- 1．比較政治における基本的な方法論と分析枠組み
- 2．南アジア政治、とりわけインド政治に関する基本的な知識

【授業計画と内容】

演習において扱う主なテーマは、次の通りである。

- 1．比較政治学の方法論
- 2．国民国家の形成：ナショナリズム論
- 3．政治体制論
- 4．民主主義論
- 5．市民社会論
- 6．選挙制度
- 7．政党
- 8．【インド】政党システムの展開
- 9．【インド】「アイデンティティの政治」の台頭
- 10．【インド】宗教暴動
- 11．【インド】国民統合

履修者は各回の課題文献を必ず読んで授業に臨むこと。なお、扱うテーマについては、履修生の関心に従って変更する可能性がある。

【履修要件】

特になし

アジア比較政治論(2)

[成績評価の方法・観点及び達成度]

平常点（70点）+ 期末レポート（30点）の組み合わせとする。

[教科書]

授業中に指示する

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学習（予習・復習）等]

課題文献は、自分の担当回のみならず、必ず講読して臨むこと。

（その他（オフィスアワー等））

オフィス・アワーの時間は特に定めません。面接希望者は、随時連絡を取ってください。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

授業科目名 <英訳>	中東の平和と戦争 Peace and War in the Middle East				担当者所属・ 職名・氏名	アジア・アフリカ地域研究研究科 教授 小杉 泰 アジア・アフリカ地域研究研究科研究員 佐藤 麻理絵					
配当 学年	1,2回生	単位数	2	開講年度・ 開講期	2017・ 後期	曜時限	火4	授業 形態	講義	使用 言語	日本語

【授業の概要・目的】

20～21世紀の中東・北アフリカ地域における平和と戦争、紛争や紛争解決、和平プロセス等について、理論的な考察を加えるとともに、主要な事例について学びます。

難民問題については、今日の国際社会における「難民」の起源が中東にあること、また、現在多くの難民が中東で生まれていることなどを考慮して、一つの大きな焦点とします。

【到達目標】

中東地域研究の専門家として、現代の中東・北アフリカの平和と戦争について、歴史と現代を総合する地域認識を獲得し、主要な事例について基本知識を学び、また新たに遭遇した事例についても自ら考察できるような視座を身につけることを目標とします。

【授業計画と内容】

講義を中心として、一部でゼミ方式で発表と討議をおこないます（組み合わせ方は、出席者の人数によって調整します）。

講義では、以下について学びます。

- ・国際システムと地域紛争
- ・両世界大戦後の「平和」に埋め込まれた紛争
- ・中東戦争：第1～4次
- ・中東和平プロセス
- ・レバノン内戦とレバノン戦争
- ・イラン・イラク戦争
- ・湾岸戦争とイラク戦争
- ・武装闘争・テロと低強度紛争
- ・「難民」の生成と変容
- ・国連と難民
- ・現代の難民問題と救援・支援の実態

ゼミ発表および期末課題は、各自の研究テーマに合わせた「知的インフラ構築」の課題（主題年表の制作など）に主体的に取り組んでいただきます。

【履修要件】

国際関係学、中東政治について既修でない場合は、同じ後期に提供されている「現代中東・北アフリカ地域論」を並行して履修することが望ましいです（必須ではありません）。

【成績評価の方法・観点及び達成度】

通常点および課題評価

【教科書】

小杉 泰 『9・11以後のイスラーム政治』（岩波書店）

----- 中東の平和と戦争 (2)へ続く -----

中東の平和と戦争 (2)

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する
他の参考文献・資料は、必要に応じて、授業中に紹介または配布します。

(関連URL)

<http://www.asafas.kyoto-u.ac.jp/kias/>((イスラーム地域研究センター))
<https://www.asafas.kyoto-u.ac.jp/global/staff/kosugi/>((小杉泰の研究室))

[授業外学習(予習・復習)等]

中東は現在でも紛争頻発地域であり、戦争や内乱も多発しています。学ぶ事例が多いので、しっかりと資料を読み、予習・復習をしてください。

(その他(オフィスアワー等))

「熱情」をもって履修してください。熱気あふれるクラスで、先端的な知見を身につけましょう。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

授業科目名 <英訳>	平和共生論の基礎 Theory of Peace and Coexistence				担当者所属・ 職名・氏名	アジア・アフリカ地域研究研究科 教授 中溝 和弥					
配当 学年	1-5回生	単位数	2	開講年度・ 開講期	2017・ 前期	曜時限	金3	授業 形態	演習	使用 言語	日本語
[授業の概要・目的]											
<p>平和と共生について考えるために必要な分析枠組みを習得することを目的とする。国際政治学、政治学、紛争解決学などのディシプリンを中心として、南アジア、とりわけインドを中心とする具体的な事例を参照しながら、基礎的な分析枠組みを学ぶ。</p> <p>授業は演習形式で行い、受講生が課題文献を正確に読解し、これに基づいて自らの研究課題に応用していくことを目指す。</p>											
[到達目標]											
平和と共生を考える上で、基礎的な分析枠組みを身につけることを目標とする。その上で、受講生が研究するそれぞれの地域に分析枠組みを応用し、各自の論文に活用することを目指す。											
[授業計画と内容]											
演習において扱うテーマは、次の通りである。											
<ol style="list-style-type: none"> 1．紛争の種類 2．国家建設 3．近代国際政治の体系 4．力の均衡 5．帝国と覇権 6．国際政治の民主化 7．相互依存論 8．冷戦と「新しい戦争」 9．破綻国家 10．暴力的紛争 11．日常型の抵抗 12．宗教紛争 13．共生の制度化 											
履修者は各回の課題文献を必ず読んで授業に臨むこと。なお、扱うテーマについては、履修生の関心に従って変更する可能性がある。											
[履修要件]											
特になし											
[成績評価の方法・観点及び達成度]											
平常点評価（70点）＋期末レポート（30点）の構成とする。											
[教科書]											
藤原帰一 『『国際政治』』（放送大学教育振興会）ISBN:978-4-13504-0（国際政治に関するテーマは、本書の議論に基づいて学習します。）											
----- 平和共生論の基礎(2)へ続く -----											

平和共生論の基礎(2)

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する
そのほかの参考文献については、授業中に指示します。

[授業外学習(予習・復習)等]

講読文献については、自分の担当回だけでなく、必ず予習するようにしてください。

(その他(オフィスアワー等))

オフィス・アワーの時間は、特に定めません。面接希望者は、随時連絡を取ってください。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

授業科目名 <英訳>	スーフィズム・タリーカ論 Sufism and Tariqa Studies I	担当者所属・ 職名・氏名	アジア・アフリカ地域研究研究科 教授 東長 靖 非常勤講師 ニッ山 達朗
---------------	---	-----------------	---

配当 学年	1-5回生	単位数	2	開講年度・ 開講期	2017・ 前期	曜時限	月5	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
----------	-------	-----	---	--------------	-------------	-----	----	----------	----	----------	-----

[授業の概要・目的]

スーフィズム・タリーカ・聖者信仰を研究する際には、さまざまなジャンルの資料が必要となる。本講義では、これらの資料の代表的なものを順次取り上げ、講読していく。

[到達目標]

アラビア語の文献を読みこなす力を身につけることを目標とする。同時に、文献を読む際に必要な工具書・参考書の使い方も身につける。

[授業計画と内容]

上記の研究のためには、理論書、列伝・徳行伝、参詣書、年代記、系譜書、用語集など、さまざまなスタイルの資料を扱えるようになる必要がある。本講義では、年に1～2点程度の資料を取り上げ、丹念に読み込む訓練を行う。

講読の対象としては、以下のような書目が挙げられる。

これまでに本講義で取り上げてきた書目は以下の通り。

クシャイリー『スーフィー派の言表とその意味の書』（2010）：用語集

ナブハーニー『聖者の奇蹟集成』より「アブー・アッバース・アフマド・ティジャーニー」（2010）：列伝

カーシャーニー『スーフィー用語集』（2011）：用語集

ナーブルスィー『シリア・エジプト・ヒジャーズ地方の旅における本義と転義』（2011）：地理書

ムハンマド・アフマド・クルディー『幽玄の熟知の扱いについての心の照射の書』（2012）：理論書（修行論）

ガザリー『宗教諸学の再興』（2013）：理論書（代表的なスーフィズム理論書）

アブドゥルカーヒル・スフラワルディー『修行者たちの作法』（2013）：理論書（スフラワルディー教団の修行規則を書いたもの。神学との整合性を中心に。）

ズィリクリー『人名録』およびカッハーラ『著述家辞典』ほか（2014）：人名辞典

タシュキョプリューザーデ『赤いアネモネ』（2015）：ウラマー・スーフィー列伝

ボスネヴィー『叡智の台座注釈』（2015）：写本

サヌースィー『40のタリーカを支える泉』（2016）：修行法

イブン・アラビー『欲望の解釈者』（2016）：アラブ詩

1回目の講義において、いくつかの候補を挙げ、何を選んで読むかを相談して決める。

[履修要件]

初級アラビア語文法を習得していること。

[成績評価の方法・観点及び達成度]

平常点によって評価する。

スーフィズム・タリーカ論 (2)

[教科書]

使用しない
テキストは当方で用意し、教室で配布する。

[参考書等]

(参考書)

東長靖 『イスラームとスーフィズム』(名古屋大学出版会) ISBN:978-4-8158-0721-4
ティエリー・ザルコンヌ 『スーフィー - イスラームの神秘主義者たち』(創元社) ISBN:978-4-422-21212-8 (豊富な写真が特徴。東長靖監修。)
東長靖・今松泰 『イスラーム神秘思想の輝き - 愛と知の探求』(山川出版社) ISBN:978-4-634-47475-8 (前半はスーフィズム概説、後半はオスマン朝スーフィズム・タリーカ史。)
山内昌之・大塚和夫編 『イスラームを学ぶ人のために』(世界思想社)((I-4 東長靖「スーフィーと教団」参照。絶版なので、図書館で借りて下さい。))
その他、教室で指示する。

[授業外学習(予習・復習)等]

アラビア語の原典講読なので、入念な予習が必要である。複数の辞書にあたるほか、地名事典・人名事典・用語集等も必要に応じて活用する必要がある。

(その他(オフィスアワー等))

講義前には、十分な準備が必要である。資料中に出てくるクルアーン、ハディースの引用などは、必ず出典を確認してくること。また、詩が出てくる場合も、韻律を調べること。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

授業科目名 <英訳>	スーフィズム・タリーカ論 Sufism and Tariqa Studies II	担当者所属・ 職名・氏名	アジア・アフリカ地域研究研究科 教授 東長 靖 非常勤講師 ニッ山 達朗
---------------	--	-----------------	---

配当 学年	1-5回生	単位数	2	開講年度・ 開講期	2017・ 後期	曜時限	月5	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
----------	-------	-----	---	--------------	-------------	-----	----	----------	----	----------	-----

[授業の概要・目的]

スーフィズム・タリーカ・聖者信仰を研究する際には、さまざまなジャンルの資料が必要となる。本講義では、これらの資料の代表的なものを順次取り上げ、講読していく。

[到達目標]

アラビア語の文献を読みこなす力を身につけることを目標とする。同時に、文献を読む際に必要な工具書・参考書の使い方も身につける。

[授業計画と内容]

上記の研究のためには、理論書、列伝・徳行伝、参詣書、年代記、系譜書、用語集など、さまざまなスタイルの資料を扱えるようになる必要がある。本講義では、これらの資料を丹念に読み込む訓練を行う。

これまでに本講義で取り上げてきた書目は以下の通り。

クシャイリー『スーフィー派の言表とその意味の書』（2010）：用語集

ナブハーニー『聖者の奇蹟集成』より「アブー・アッパース・アフマド・ティジャーニー」（2010）：列伝

カーシャーニー『スーフィー用語集』（2011）：用語集

ナーブルスィー『シリア・エジプト・ヒジャーズ地方の旅における本義と転義』（2011）：地理書

ムハンマド・アフマド・クルディー『幽玄の熟知の扱いについての心の照射の書』（2012）：理論書（修行論）

ガザリー『宗教諸学の再興』（2013）：理論書（代表的なスーフィズム理論書）

アブドゥルカーヒル・スフラワルディー『修行者たちの作法』（2013）：理論書（スフラワルディー教団の修行規則を書いたもの。神学との整合性を中心に。）

ズィリクリー『人名録』およびカッハーラ『著述家辞典』ほか（2014）：人名辞典

タシュキョプリューザーデ『赤いアネモネ』（2015）：ウラマー・スーフィー列伝

ボスネヴィー『叡智の台座注釈』（2015）：写本

サヌースィー『40のタリーカを支える泉』（2016）：修行法

イブン・アラビー『欲望の解釈者』（2016）：アラブ詩

1回目の講義において、いくつかの候補を挙げ、何を選んで読むかを相談して決める。

[履修要件]

初級アラビア語を習得していること。

[成績評価の方法・観点及び達成度]

平常点によって評価する。

スーフィズム・タリーカ論 (2)

[教科書]

使用しない
テキストは当方で用意し、教室で配布する。

[参考書等]

(参考書)

東長靖 『イスラームとスーフィズム』(名古屋大学出版会) ISBN:978-4-8158-0721-4
ティエリー・ザルコンヌ 『スーフィー - イスラームの神秘主義者たち』(創元社) ISBN:978-4-422-21212-8 (豊富な図版が特徴。東長靖監修。)
東長靖・今松泰 『イスラーム神秘思想の輝き - 愛と知の探求』(山川出版社) ISBN:978-4-634-47475-8 (前半はスーフィズム概説、後半はオスマン朝スーフィズム・タリーカ史。)
山内昌之・大塚和夫編 『イスラームを学ぶ人のために』(世界思想社) (I-4 東長靖「スーフィーと教団」参照。絶版なので、図書館で借りて下さい。)
その他、教室で指示する。

[授業外学習(予習・復習)等]

アラビア語の原典講読なので、入念な予習が必要である。複数の辞書にあたるほか、地名事典・人名事典・用語集等も必要に応じて活用する必要がある。

(その他(オフィスアワー等))

講義前には、十分な準備が必要である。資料中に出てくるクルアーン、ハディースの引用などは、必ず出典を確認してくること。また、詩が出てくる場合も、韻律を調べること。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

授業科目名 <英訳>	中央アジア地域研究論 Central Asian Area Studies				担当者所属・ 職名・氏名	東南アジア地域研究研究所 准教授 帯谷 知可					
配当 学年	1,2回生	単位数	2	開講年度・ 開講期	2017・ 後期	曜時限	金2	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
[授業の概要・目的]											
<p>旧ソ連中央アジア（ウズベキスタン、カザフスタン、クルグズ、タジキスタン、トルクメニスタン）はユーラシア大陸の中心部に位置し、ペルシア語／テュルク語とイスラームを歴史的な文化基盤としながらも、ロシア・ソ連文化の波を受け、社会主義とそのもとでの近代化を経験した興味深い地域である。</p> <p>この地域の現在を理解するための基本的視座を提供することを目的として、その近現代史を振り返る。</p>											
[到達目標]											
旧ソ連中央アジアの重層的な文化基層を理解し、ソ連解体以降生じた変容と新たな研究領域について概要を説明できるようになる。											
[授業計画と内容]											
<p>以下のようなテーマを設定し、それぞれについて1～2回授業を行う予定である。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1．地域概念としての中央アジア、中央アジアへの視点 2．帝政ロシアの中央アジア征服とその統治 3．中央アジアとロシア革命 4．ソ連体制下の近代化 5．ペレストロイカと中央アジア、そしてソ連からの独立へ 6．独立後のナショナリズムの諸相 7．中央アジアのイスラーム <p>後半部では、受講者の関心に合わせて、中央アジア関連の研究書の講読や研究発表を盛り込む可能性もある。</p>											
[履修要件]											
中央アジア地域に関心があること、または中央アジアと比較対照しうる共通項のある地域に関心があることが望ましい。											
[成績評価の方法・観点及び達成度]											
平常点および期末のレポート。											
[教科書]											
使用しない											
[参考書等]											
<p>（参考書）</p> <p>小松久男他編 『中央ユーラシアを知る事典』（平凡社）（中央ユーラシアに関する読む事典）</p> <p>宇山智彦編 『中央アジアを知るための60章』（明石書店）（中央アジア地域研究の入門書）</p> <p>小松久男編 『中央ユーラシア史』（山川出版社）</p>											
----- 中央アジア地域研究論(2)へ続く -----											

中央アジア地域研究論(2)

帯谷知可他編 『朝倉世界地理講座 人間と大地の物語 5 中央アジア』(朝倉書店)(日本の中央ユーラシア地域研究の近年の成果)

岩崎一郎他編 『現代中央アジア論』(日本評論社)(絶版)

その他、適宜授業で紹介する。

[授業外学習(予習・復習)等]

授業期間中に参考文献等としてここにあげた文献、ならびに授業時に配布する参考文献リストにあげてある文献をできるだけ多く読むようにすること。

(その他(オフィスアワー等))

連絡はこちらへ obiya@cias.kyoto-u.ac.jp

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

授業科目名 <英訳>	イスラーム社会経済論 Islamic Society and Economics II				担当者所属・ 職名・氏名	アジア・アフリカ地域研究研究科 准教授 長岡 慎介					
配当 学年	1,2回生	単位数	2	開講年度・ 開講期	2017・ 後期	曜時限	金4	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
【授業の概要・目的】											
本講義は、イスラーム世界における経済・社会システムについて、その思想と理論・実践の現状、研究の最新動向を学びます。											
【到達目標】											
本講義で取り上げる文献の批判的講読を通じて、自らのイスラーム経済研究をよりブラッシュアップすることをめざします。											
【授業計画と内容】											
本講義は、以下の3つのモジュールに分けて進めます。 (1) イスラーム経済研究に関する研究文献(英語)の講読 (2) イスラーム経済研究に資する経済学・経済史の研究文献(英語あるいは日本語)の講読 (3) 受講者による自らの研究テーマに即した最新研究論文の報告											
【履修要件】											
この講義は大学院開講科目ですので、イスラーム経済についての基礎的・一般的解説は行いません。また、下記のすべての文献を開講前に読み終え、そこで展開されている内容・議論を十分に把握していることを履修要件とします。											
(1) イスラーム経済の実態に関する概説書 小杉泰・長岡慎介『イスラーム銀行 金融と国際経済』山川出版社、2010年。 イスラームビジネス法研究会/西村あさひ法律事務所編『イスラーム圏ビジネスの法と実務』一般財団法人経済産業調査会、2014年。 濱田美紀・福田安志編『世界に広がるイスラーム金融 中東からアジア、ヨーロッパへ』アジア経済研究所、2011年。 加藤博『文明としてのイスラーム』東京大学出版会、1995年。 吉田悦章『イスラーム金融入門』東洋経済新報社、2007年。 Muhammad Ayub Understanding Islamic Finance. Wiley, 2007. Zamir Iqbal and Abbas Mirakhor An Introduction to Islamic Finance: Theory and Practice. Wiley, 2011.											
(2) イスラーム経済に関する基本的研究書 長岡慎介『現代イスラーム金融論』名古屋大学出版会、2011年。 El-Gamal, M. Islamic Finance: Law, Economics and Practice. Cambridge University Press, 2001. Muhammad Akram Khan, What is Wrong with Islamic Economics? Analysing the Present State and Future Agenda. Edward Elgar, 2014. Murat Cizakca Islamic Capitalism and Finance: Origins, Evolution and the Future. Edward Elgar, 2011.											
----- イスラーム社会経済論 (2)へ続く -----											

イスラーム社会経済論 (2)

[成績評価の方法・観点及び達成度]

授業で行う講読（報告）のパフォーマンスと議論への貢献度、出席状況によって評価します。

[教科書]

* 講義で輪読する文献については、9月半ば以降に担当教員の研究室の前に張り出します。

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学習（予習・復習）等]

履修要件となっている事前講読文献については、必ず読み終えてから講義に臨んでください。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

授業科目名 <英訳>	オスマン朝スーフィズム論 I The Study of Ottoman Sufism I				担当者所属・ 職名・氏名	アジア・アフリカ地域研究研究科 教授 東長 靖					
配当 学年	1-5回生	単位数	2	開講年度・ 開講期	2017・ 前期	曜時限	金3	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
[授業の概要・目的]											
オスマン朝のイスラーム思想はその重要性にもかかわらず、いまだ十分に研究されているとは言えない。本講義は、そのなかでも重要なスーフィズムに焦点を合わせる。オスマン朝の思想書は、アラビア語、ペルシア語、オスマン・トルコ語で書かれるが、本講義ではこの内、オスマン・トルコ語の文献を扱う。前期は、オスマン・トルコ語の文法を中心に学ぶ。											
[到達目標]											
オスマン・トルコ語の文献を読みこなす力を身につけることを目標とする。											
[授業計画と内容]											
教科書を用いて、オスマン・トルコ語の文法を順次学ぶ。可能なら早めに終わって、前期の内に講義に入る。 また、必要に応じて、オスマン朝のスーフィズムやイスラーム思想についての講義を行う。											
[履修要件]											
現代トルコ語を習得済みで、かつアラビア語・ペルシア語の少なくともひとつを習得していること。											
[成績評価の方法・観点及び達成度]											
平常点によって評価する。											
[教科書]											
勝田茂 『オスマン語文法読本』（大学書林）ISBN:4-475-01862-5											
[参考書等]											
（参考書） 東長靖編 『オスマン朝思想文化研究』（イスラーム地域研究センター）ISBN:非売品（オスマン朝の思想・文化のいくつかのジャンルについての解題と原典・翻訳）											
[授業外学習（予習・復習）等]											
講義前には、十分な準備が必要である。資料中に出てくるクルアーン、ハディースの引用などは、必ず出典を確認してくること。											
（その他（オフィスアワー等））											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

授業科目名 <英訳>	アラビア語原典講読III Reading Original Arabic Texts III				担当者所属・ 職名・氏名	アジア・アフリカ地域研究研究科 教授 小杉 泰 アジア・アフリカ地域研究研究科 准教授 長岡 慎介 アジア・アフリカ地域研究研究科 特任准教授 竹田 敏之					
配当 学年	1,2回生	単位数	2	開講年度・ 開講期	2017・ 前期	曜時限	火3	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
【授業の概要・目的】											
現代イスラーム世界の国際組織・再活性化する伝統的制度に関する基本的なアラビア語原典を講読し、各自の研究テーマに即した理解を深める。											
【到達目標】											
アラビア語原典を活用した独創的な研究成果を発信できるようになることをめざす。											
【授業計画と内容】											
現代イスラーム世界の法・社会に関する原典資料の調査方法、読解と解析の視座、具体的な方法などの概要を学んだ後に、アラビア語原典の講読を進める。											
【履修要件】											
アラビア語文法の基本は修了していること。											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
出席と講読を中心に、平常点で評価する。											
【教科書】											
授業中に指示する 講読テキストは、受講生の研究テーマ等を考慮して、最初の2週のうちに決定する。											
【参考書等】											
(参考書) 授業中に紹介する											
【授業外学習(予習・復習)等】											
毎回の講読部分について、十分な予習を行ってこよう。											
【その他(オフィスアワー等)】											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

授業科目名 <英訳>	アジア・アフリカ・スーフィズム論 Asian and African Sufi Studies		担当者所属・ 職名・氏名	アジア・アフリカ地域研究研究科 教授 東長 靖 人文科学研究所 准教授 中西 竜也 非常勤講師 藤井 千晶							
配当 学年	1,2回生	単位数	2	開講年度・ 開講期	2017・ 後期	曜時限	火3	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
【授業の概要・目的】											
イスラーム世界のほぼ全域にスーフィズムは広がっている。その諸相を、思想研究・歴史研究・人類学の3つのアプローチから分析する。											
【到達目標】											
アジア・アフリカ地域のスーフィズムについての広い知識を身につけることを目標とする。同時に相異なるディシプリンをも散って対象を考察する姿勢も身につける。											
【授業計画と内容】											
おおむね、次の順序で授業を行う。 1．オリエンテーション（担当：全教員） 2．思想研究からみるスーフィズム：スーフィズムとは何か、修行論と靈魂論、人間論と宇宙論、歴史のなかのスーフィズム、現代に生きるスーフィズム（担当：東長） 3．歴史研究からみるスーフィズム：中央アジアにおけるスーフィー教団（タリーカ）の興隆、クブラウィーヤ派の発展と衰退、ナクシュバンディーヤ派の拡大、ナクシュバンディーヤ派とイスラーム改革主義、中国のスーフィズム（担当：中西） 4．人類学からみるスーフィズム：東アフリカにおける民衆のイスラームとタリーカ、東アフリカのタリーカの特徴、タリーカ指導者によるイスラーム医療実践、イスラーム実践の伝統と改革（担当：藤井）											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
平常点（50パーセント）とレポート（50パーセント）による。											
【教科書】											
使用しない											
【参考書等】											
（参考書） 東長靖・今松泰 『イスラーム神秘思想の輝き - 愛と知の探求』（山川出版社）ISBN:978-4-634-47475-8（前半はスーフィズム概説、後半はオスマン朝スーフィズム・タリーカ史。） ティエリー・ザルコンヌ 『スーフィー - イスラームの神秘主義者たち』（創元社）ISBN:978-4-422-21212-8（豊富な写真が特徴。東長靖監修。） 東長靖 『イスラームとスーフィズム』（名古屋大学出版会）ISBN:978-4-8158-0721-4（専門的な論集だが、第1部は本講義に対する視座として有効。） 高橋圭 『スーフィー教団 - 民衆イスラームの伝統と再生』（山川出版社）ISBN:978-4-634-47476-5（日本語で読めるタリーカの唯一の概説書。現代エジプトに焦点を合わせる。） 赤堀雅幸編 『民衆のイスラーム - スーフィー・聖者・精霊の世界』（山川出版社）ISBN:978-4-634-											
----- アジア・アフリカ・スーフィズム論(2)へ続く -----											

アジア・アフリカ・スーフィズム論(2)

47452-9 (聖者信仰に重点を置いている。)

赤堀雅幸・東長靖・堀川徹編 『イスラームの神秘主義と聖者信仰』 (東京大学出版会) ISBN:4-13-034187-1 (聖者信仰、スーフィズム[タサウウフ]、タリーカ、サイド・シャリーフ論の4つのジャンルを取り上げ、概論と個別研究を組み合わせたもの。)

濱田正美 『中央アジアのイスラーム』 (山川出版社) ISBN:978-4-634-34700-7 (中央アジアにおけるイスラームおよびスーフィズムの諸相を解説)

[授業外学習 (予習・復習) 等]

講義内でよく理解できなかった点については、参考図書などを用いて復習すること。

(その他 (オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

授業科目名 <英訳>	イスラーム世界論研究Ⅰ The Study of the Islamic World I				担当者所属・ 職名・氏名	アジア・アフリカ地域研究研究科 教授 東長 靖 アジア・アフリカ地域研究研究科 准教授 長岡 慎介					
配当 学年	1,2回生	単位数	2	開講年度・ 開講期	2017・ 前期	曜時限	火4	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
[授業の概要・目的]											
本講義は、イスラーム世界研究のディシプリンの基礎としてのイスラーム学について、その基礎を修得するとともに、基本問題についての表現・発信能力を身につける。各テーマに関して、基本的な問題を論じると共に、学界および研究の現状を踏まえた論議は行うが、大学院の授業であり、入門的事項は扱わない。											
[到達目標]											
イスラーム思想の基礎的な問題について、正確に知り、理解することを目標とする。イスラーム学はアラビア語を根幹として作り上げられてきた学問なので、概念・術語をアラビア語でどう表現するかはとくに重要である。											
[授業計画と内容]											
イスラーム学の主要なテーマについて、(a) 講義を行う。必要に応じて、(b) ゼミ、(c) 講評会を行う。 以下のようなテーマを扱う。文献記入法、ユダヤ教、キリスト教、クルアーン、イスラーム神学、シーア派、スーフイズム、哲学、その他。 (a)講義は、参加（出席、質問）を主とする。事前にリーディングが指定されていないときは、特に準備は必要ない。(b)ゼミは、指定されたテキストについて、全員が発表を行う。レジュメまたは発表原稿を必ず用意すること。一人あたりの持ち時間は7分程度。(c)講評会は、指定された原稿を書いたものを持ち寄り、講評を受ける。書かれた原稿を読み上げる以外に、各自の持ち時間はない。なお、言うまでもないが、他人の書いたものを丸写ししたり、どこを引用したか分からないような形で用いることは「剽窃」となる。正規のルールに基づく「引用」は可。											
[履修要件]											
授業開始以前に、東長靖『イスラームのとらえ方』山川出版社（世界史リブレット15）、小杉泰『イスラームとは何か その宗教・社会・文化』講談社（講談社現代新書）を必ず読了しておくこと。											
[成績評価の方法・観点及び達成度]											
以下の4点を総合的に判断する。(1) 講義への参加（出席、質問、討論）。(2) ゼミでのテキスト講読、発表。(3) 講評会での「原稿」提出。(4) 文献リストの作成（イスラーム学＋自己テーマ）											
[教科書]											
使用しない											
[参考書等]											
（参考書） 授業中に紹介する											
[授業外学習（予習・復習）等]											
前回の講義で指示された課題がある場合は、それをプリントアウトしたものを提出する。 #160 （その他（オフィスアワー等）） オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

授業科目名 <英訳>	イスラーム世界論研究ⅠⅡ The Study of the Islamic World II	担当者所属・ 職名・氏名	アジア・アフリカ地域研究研究科 准教授 長岡 慎介 アジア・アフリカ地域研究研究科 教授 東長 靖
---------------	---	-----------------	--

配当 学年	1,2回生	単位数	2	開講年度・ 開講期	2017・ 後期	曜時限	金3	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
----------	-------	-----	---	--------------	-------------	-----	----	----------	----	----------	-----

[授業の概要・目的]

イスラーム世界研究のディシプリンの基礎としてのイスラーム学について、その基礎を修得するとともに、基本問題についての表現・発信能力を身につけることをめざします。各テーマに関して、基本的な問題を論じると共に、学界および研究の現状を踏まえた論議をおこないます。

[到達目標]

イスラーム研究、イスラーム世界研究、イスラーム地域研究、中東地域研究などの専門家としての「イスラーム」認識方法を獲得し、学術的な基礎を身につけ、また必要な知識を自分で探索できるようになることを目標とします。

[授業計画と内容]

イスラーム学の以下のテーマについて、(a) 講義、(b) ゼミ、(c) 講評会を行います。
初期イスラーム、法学、イスラーム復興

(a)講義は、参加（出席、質問）を主とする。事前にリーディングが指定されていないときは、特に準備は必要ない。

(b)ゼミは、指定されたテキストについて、全員が発表を行う。レジュメまたは発表原稿を必ず用意すること。一人あたりの持ち時間は7分程度。

(c)講評会は、指定された原稿を書いたものを持ち寄り、講評を受ける。書かれた原稿を読み上げる以外に、各自の持ち時間はない。なお、言うまでもないが、他人の書いたものを丸写ししたり、どこを引用したか分からないような形で用いることは「剽窃」となる。正規のルールに基づく「引用」は可。講評を踏まえて、清書原稿を再提出する。

[履修要件]

10月末までに下記参考書のうち2冊を読み、読書レポート（それぞれA4×2頁以上）を執筆し提出してください。（成績には加味されませんが、この課題の提出が履修自体の要件になります）

[成績評価の方法・観点及び達成度]

以下の4項目を足し合わせた形（それぞれ20点ずつ）で成績を出します。

- (1) 出席点（遅刻はカウントしません）
- (2) 講義への貢献度（質問、討論）
- (3) ゼミでの発表パフォーマンス
- (4) 講評会およびそれを踏まえて提出された清書原稿のパフォーマンス
- (5) 期末課題

イスラーム世界論研究ⅠⅠ(2)

[教科書]

授業中に指示する

[参考書等]

(参考書)

小杉泰 『9・11以後のイスラーム政治』(岩波書店)

小杉泰 『イスラーム帝国のジハード』(講談社学術文庫)

小杉泰 『現代イスラーム世界論』(名古屋大学出版会)

小杉泰 『イスラーム文明と国家の形成』(京都大学学術出版会)

小杉泰、長岡慎介 『イスラーム銀行 金融と国際経済』

大塚和夫ほか編 『岩波イスラーム辞典』(岩波書店)

小杉泰、林佳世子、東長靖編 『イスラーム世界研究マニュアル』(名古屋大学出版会)

[授業外学習(予習・復習)等]

本講義は、イスラーム世界論講座のコア科目です。大量の課題を出しますので、講義に向けて入念な準備をしてくることを期待します。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

授業科目名 <英訳>	南アジア地域論 South Asian Area Studies I				担当者所属・ 職名・氏名	アジア・アフリカ地域研究研究科 教授 藤倉 達郎 アジア・アフリカ地域研究研究科 准教授 中村 沙絵					
配当 学年	1,2回生	単位数	2	開講年度・ 開講期	2017・ 前期	曜時限	火2	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
[授業の概要・目的]											
地域における出来事 / 現象を理解するには、人文・社会科学的な概念や理論を必要とする。この授業では、社会学・人類学を中心とし、それらの学説史を踏まえながら、基本的な概念と理論を論ずる。そして、それらの知識を、フィールドワークの過程や論文作成においてどのように活用するかについて議論する。											
[到達目標]											
社会学・人類学の基本的な概念と理論を理解し、それらを主体的・批判的に応用する能力をつける。 なお、本講義の内容は、後期開講する南アジア地域論IIIにつながるものであり、受講生は引き続き南アジア地域論IIIを受講することを推奨する。（なお、この講義はグローバル地域研究専攻南アジアインド洋世界論講座の授業である。）											
[授業計画と内容]											
授業内容は以下の通り。必要に応じて文献購読も行う。 1. 個人と社会 2. 文化と社会：文化相対主義 3. 構造機能主義 4. 文化の解釈 5. 現代的展開と諸問題 なお、受講状況により変更することがある。											
[履修要件]											
特になし。											
[成績評価の方法・観点及び達成度]											
自らの研究関心との関わりで、どの程度講義内容を習得したかを評価する。 評価方法は、平常点および学期末レポート											
[教科書]											
使用しない											
[参考書等]											
(参考書) 授業中に紹介する											
[授業外学習(予習・復習)等]											
授業中に指示する。											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワー： 随時											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

授業科目名 <英訳>	南アジア地域論 South Asian Area Studies II				担当者所属・ 職名・氏名	アジア・アフリカ地域研究研究科 教授 藤倉 達郎 アジア・アフリカ地域研究研究科 准教授 中村 沙絵					
配当 学年	1,2回生	単位数	2	開講年度・ 開講期	2017・ 前期	曜時限	水2	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
【授業の概要・目的】											
南アジアの主要な民族誌的研究を参照しながら、南アジア地域の社会と文化を具体的に論じる。そして、この地域の研究に関する主な論点と、社会学・人類学を中心とした研究枠組みを議論する。また、それらの知識を、フィールドワークの過程や論文作成においてどのように活用するかについて議論する。											
【到達目標】											
南アジアに関する民族誌的研究における主な論点とアプローチについて主体的に検討する能力をつける。 なお、本講義の内容は、後期開講する南アジア地域論IIIにつながるものであり、受講生は引き続き南アジア地域論IIIを受講することを推奨する。（なお、この講義はグローバル地域研究専攻南アジアインド洋世界論講座の授業である。）											
【授業計画と内容】											
授業内容は以下の通り。必要に応じて文献購読も行う。 1. 地域としての南アジア その多様性と統一性 2. 南アジアの生態・農業・経済・政治 3. ヒンドゥー教 4. 仏教 5. カースト 6. 植民地における知と権力 7. サバルタンとは誰か 8. 現代南アジアの諸問題 なお、受講状況により変更することがある。											
【履修要件】											
特になし。											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
自らの研究関心との関わりで、どの程度講義内容を習得したかを評価する。 評価方法は、平常点および学期末レポート											
【教科書】											
使用しない											
【参考書等】											
(参考書) 授業中に紹介する											
----- 南アジア地域論 (2)へ続く -----											

南アジア地域論 (2)

[授業外学習（予習・復習）等]

授業中に指示する。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワー： 随時

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

授業科目名 <英訳>	インド洋世界論 Studies on the Indian Ocean World				担当者所属・ 職名・氏名	人文科学研究所 教授 稲葉 穰					
配当 学年	1,2回生	単位数	2	開講年度・ 開講期	2017・ 前期	曜時限	火4	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
[授業の概要・目的]											
文献研究は、地域研究においてフィールドワークと並んで重要な作業である。この授業では16世紀以降の南アジアに関する文献資料（ペルシア語あるいは英語）を読解することを通じ、文化交流と文化変容のあり方を考察する（なお、この講義はグローバル地域研究専攻南アジアインド洋世界論講座の授業である。）											
[到達目標]											
近世近代環インド洋世界に関連する一次資料の講読を通じて、文献研究とフィールドワークをどのように結びつけるのか、各自の研究テーマに即した方法を学ぶ。											
[授業計画と内容]											
イギリスによるインド支配の成立はある意味でインドとその周縁部からなる南アジアの近代の幕を上げることとなったが、19世紀初めにブハラとアフガニスタンに使節として赴いたイギリス人外交官アレクサンダー・バーンズの残した記録、および同時期にアフガニスタンに在住し、スパイとしても活動したチャールズ・マッソンの残した記録を会読し、近代ヨーロッパのアジア観を探ると共に、南アジアと中央アジアのフロンティアがどのように認識されていたのかを考察する、この点は今も続くアフガン内戦の背景を理解するためにも不可欠な事柄である。											
[履修要件]											
インド文化、イスラム文化に関する基本的な知識を有していること。											
[成績評価の方法・観点及び達成度]											
出席者にはテキストの訳読と原稿作成を求め、それによって評価する。進度次第で、期末にレポートを課す。											
[教科書]											
使用しない											
[参考書等]											
（参考書） 会読用テキストについては、授業時にコピーとして配布する。											
[授業外学習（予習・復習）等]											
授業中に指示する											
（その他（オフィスアワー等））											
内容としてはテキスト会読と、その内容に関する解説を主眼とするため、出席者には該当箇所を十分予習してくることが求められる。											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

授業科目名 <英訳>	南アジア・イスラーム論 Islam in South Asia				担当者所属・ 職名・氏名	大阪大学大学院言語文化研究科 山根 聡 教授					
配当 学年	1,2回生	単位数	2	開講年度・ 開講期	2017・ 前期集中	曜時限	集中講義	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
[授業の概要・目的]											
南アジアは世界で最も多いムスリム人口を抱え、イスラーム世界全体に対する政治的、思想的、社会的な影響力をもたらしてきた。本授業では、南アジアのムスリムの動態をさまざまな視点から考察し、イスラーム世界全体での南アジアの重要性について再検討したい。 (なお、この講義はグローバル地域研究専攻南アジアインド洋世界論講座の授業である。)											
[到達目標]											
現代イスラーム研究および南アジア研究において、南アジア・イスラーム論はその重要性を増しており、研究が盛んになりつつある。そこで、本講義を履修することで、南アジア・イスラームの歴史的経緯を概観し、先行研究に関する知識を把握したうえで、南アジアのイスラームがイスラーム世界および南アジアにいかなる意義を持っているかについて知ることができ、各自の研究テーマと重ね合わせて、問題意識を高めることを目標とする。											
[授業計画と内容]											
1 - 3回 南アジアにおけるムスリムの歴史 4 - 6回 「インド・イスラーム文化」について 7 - 9回 ムスリムの近代化とイスラーム復興 10 - 12回 文学と宗教 13 - 15回 現代イスラーム世界における南アジア											
[履修要件]											
特別な予備知識は必要としない。ただ、それぞれが研究を進める地域と比較する視点を常に持ちながら受講していただきたい。											
[成績評価の方法・観点及び達成度]											
出席状況により評価する。特に、出席時の積極的な姿勢を評価したい。											
[教科書]											
授業中に指示する 逐次資料を配布する。											
[参考書等]											
(参考書) 授業中に紹介する											
[授業外学習(予習・復習)等]											
配布資料等に関して、逐次予習・復習をしていただきたい。											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

授業科目名 <英訳>	南アジア文化論 Theories of Culture and South Asian Area Studies				担当者所属・ 職名・氏名	アジア・アフリカ地域研究研究科 准教授 中村 沙絵 アジア・アフリカ地域研究研究科 教授 藤倉 達郎					
配当 学年	1-5回生	単位数	2	開講年度・ 開講期	2017・ 後期	曜時限	火2	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
[授業の概要・目的]											
南アジア地域研究からは、他地域の研究にも影響を与える多くの文化理論が生まれた。もちろん、他地域の研究から生まれた文化理論も、南アジア地域研究に適用されている。本セミナーでは、地域研究に資する可能性のある様々な文化理論について検討する。											
[到達目標]											
地域研究に資する可能性のある様々な文化理論を理解し、また応用する能力を身につける。											
[授業計画と内容]											
授業で扱う内容については、オリエンテーション（第1回目の授業）の際に履修者からの希望を聞いて決める。これまで扱った内容は以下のとおり：											
身体論、権力と主体、アクター・ネットワーク理論、感情と情動、紛争と暴力、生態心理学、記号論、カースト論やダリット、先住民性											
[履修要件]											
特になし											
[成績評価の方法・観点及び達成度]											
平常点と期末レポートによって評価する。											
[教科書]											
授業中に指示する											
[参考書等]											
（参考書） 授業中に紹介する											
[授業外学習（予習・復習）等]											
毎回、リーディング課題が出されるので、読んだうえで、ディスカッションのための質問を用意してくる。											
（その他（オフィスアワー等））											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

授業科目名 <英訳>	南アジアの宗教と政治 Religion and Politics in South Asia				担当者所属・ 職名・氏名	アジア・アフリカ地域研究研究科 客員准教授 拓 徹					
配当 学年	1,2回生	単位数	2	開講年度・ 開講期	2017・ 後期	曜時限	月4	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
【授業の概要・目的】											
<p>現代の南アジアにおいては、宗教が政治に大きな関わりを持っている。また、南アジアの宗教と政治も、近代化の過程で大きく変容した。本授業では、南アジアの社会・政治を読み解くうえで欠かせない宗教について、近現代のヒンドゥー教と（南アジアの）イスラーム教に焦点を当て、その基礎知識を学ぶ。</p> <p>授業形式は講義と演習を交え、毎回課題文献を出す。</p>											
【到達目標】											
<p>現代の世界において、宗教はときに脅威として人の目に映ることもあるが、この授業を通じて、現代における宗教の問題を偏見なく、的確かつ論理的にとらえる枠組みを各自が自分なりに組み立ててくれれば幸いである。</p>											
【授業計画と内容】											
<ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション 2. 範型としての西欧の近代化（宗教と政治をめぐって） 参考文献：Alasdair MacIntyre, A Short History of Ethics 3. ヒンドゥー教の近代化とは何だったのか：古代、中世との対比 4. ヒンドゥー教の近代化 ラームモーハン・ラーイ、アーリヤ・サマージ、サナータン・ダルマ、 ヴィヴェーカーナンダ 5. イスラーム教の近代化とは何だったのか：イブン・タイミーヤ再考 6. 南アジアにおけるイスラーム教の近代化1 アフマド・シルヒンディー、シャー・ワリーウッラー、19世紀インドの ムジャヒディーン運動 7. 南アジアにおけるイスラーム教の近代化2 サイド・アフマド・カーン、シプリー・ノーマーニー、デーオバンド派/ バレールウィー派/アフレ・ハディース 8. 20世紀のインド・パキスタンにおける宗教をめぐる政治の歴史（概観） 9. 20世紀のヒンドゥー思想 ガンディー、ヒンドウトヴァ関係（サーヴァルカル、ゴールワルカル、 ウパードヤーイ）、二人のサーイー・バーバー、Osho/ラジニーシ 参考文献：Christophe Jaffrelot (ed.), Hindu Nationalism: A Reader 10. 20世紀南アジアのイスラーム思想 マウドゥーディー、アブー・アル・ハサン・アリー・ハサニー・ナドウィー、 ワヒドゥッディーン・カーン、ザーキル・ナーイク 11. インドの法と宗教 参考文献：Ronojoy Sen, Articles of Faith 12. セキュラリズム論 参考文献：Rajeev Bhargava (ed.), Secularism and Its Critics 13. アイデンティティー論：Culture, Society, Identity 14. 今日の南アジアにおける宗教と政治（特定事例の検討） 											
----- 南アジアの宗教と政治(2)へ続く -----											

南アジアの宗教と政治(2)

(多少の変更の可能性あり)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点及び達成度】

平常点（出席50点、課題文献読解20点）、期末レポート（30点）

【教科書】

授業中に指示する

【参考書等】

（参考書）
授業中に紹介する

【授業外学習（予習・復習）等】

課題文献は必ず読んで来てください。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーはとくに定めません。
拓研究室：AA419 内線9197

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

授業科目名 <英訳>	グローバル地域研究演習 Research Seminar on Global Area Studies I				担当者所属・ 職名・氏名	アジア・アフリカ地域研究研究科 教授 グローバル地域研究専攻全教員					
配当 学年	1,2回生	単位数	3	開講年度・ 開講期	2017・ 前期	曜時限	水3	授業 形態	ゼミナール	使用 言語	日本語及び英語
[授業の概要・目的]											
グローバル地域研究について、グローカリゼーションと地域の固有性の相関性、アジア・アフリカの平和共生および生存基盤、イスラーム世界および南アジア・インド洋世界の特質などについて明らかにするとともに、グローバル地域研究の基礎的な問題群とアプローチの方法に関する演習をおこなう。											
[到達目標]											
グローバル地域研究の基礎的な問題群を理解し、様々なアプローチを主体的に検討する能力を身につける。											
[授業計画と内容]											
第1週 オリエンテーション 第2 - 14週 各自の研究報告を中心とする演習 第15週 まとめ											
[履修要件]											
博士予備論文審査にまだ合格していない者。											
[成績評価の方法・観点及び達成度]											
発表内容および出席により評価するが、ゼミの中での積極的な姿勢も考慮に入れる。											
[教科書]											
授業中に指示する											
[参考書等]											
(参考書) 授業中に紹介する											
[授業外学習(予習・復習)等]											
指導教員と相談して決める。											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

授業科目名 <英訳>	グローバル地域研究演習 Research Seminar on Global Area Studies II				担当者所属・ 職名・氏名	アジア・アフリカ地域研究研究科 教授 グローバル地域研究専攻全教員					
配当 学年	1,2回生	単位数	3	開講年度・ 開講期	2017・ 後期	曜時限	水3	授業 形態	ゼミナール	使用 言語	日本語及び英語
[授業の概要・目的]											
グローバル地域研究について、グローカリゼーションと地域の固有性の相関性、アジア・アフリカの平和共生および生存基盤、イスラーム世界および南アジア・インド洋世界の特質などの分野に関する具体的な事例をとりあげ、研究課題の構築とそのアプローチの方法についての演習をおこなう。											
[到達目標]											
具体的な研究課題の構築とアプローチについて主体的に検討する能力を身につける。											
[授業計画と内容]											
第1週 オリエンテーション 第2 - 14週 各自の研究報告を中心とする演習 第15週 まとめ											
[履修要件]											
博士予備論文審査にまだ合格していない者。											
[成績評価の方法・観点及び達成度]											
発表内容および出席により評価するが、ゼミの中での積極的な姿勢も考慮に入れる。											
[教科書]											
授業中に指示する											
[参考書等]											
(参考書) 授業中に紹介する											
[授業外学習(予習・復習)等]											
指導教員と相談して決める。											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

授業科目名 <英訳>	グローバル地域研究演習 Research Seminar on Global Area Studies III				担当者所属・ 職名・氏名	アジア・アフリカ地域研究研究科 教授 グローバル地域研究専攻全教員					
配当 学年	3-5回生	単位数	3	開講年度・ 開講期	2017・ 前期	曜時限	水5	授業 形態	ゼミナール	使用 言語	日本語及び英語
[授業の概要・目的]											
グローバル地域研究について、グローカリゼーションと地域の固有性の相関性、アジア・アフリカの平和共生および生存基盤、イスラーム世界および南アジア・インド洋世界の特質などの分野に関する総合的な問題把握と研究方法についての演習をおこなう。また、博士論文作成のために、多角的な視点からの評価や指導をおこなう。											
[到達目標]											
博士論文作成に向けての研究課題の明確化とアプローチの精緻化。											
[授業計画と内容]											
第1週 オリエンテーション 第2 - 14週 各自の研究報告を中心とする演習 第15週 まとめ											
[履修要件]											
博士予備論文の審査に合格した者。											
[成績評価の方法・観点及び達成度]											
発表内容および出席により評価するが、ゼミの中での積極的な姿勢も考慮に入れる。											
[教科書]											
授業中に指示する											
[参考書等]											
(参考書) 授業中に紹介する											
[授業外学習(予習・復習)等]											
指導教員と相談して決める。											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

授業科目名 <英訳>	グローバル地域研究演習 Research Seminar on Global Area Studies IV				担当者所属・ 職名・氏名	アジア・アフリカ地域研究研究科 教授 グローバル地域研究専攻全教員					
配当 学年	3-5回生	単位数	3	開講年度・ 開講期	2017・ 後期	曜時限	水5	授業 形態	ゼミナール	使用 言語	日本語及び英語
[授業の概要・目的]											
グローバル地域研究について、グローカリゼーションと地域の固有性の相関性、アジア・アフリカの平和共生および生存基盤、イスラーム世界および南アジア・インド洋世界の特質などの分野に関する先端的な問題群と研究方法についての演習をおこなう。また、博士論文についての相互討論を深め、創造的で自立的な研究へ向けての評価や指導をおこなう。											
[到達目標]											
博士論文作成の進展と、創造的で自立的な研究能力の獲得。											
[授業計画と内容]											
第1週 オリエンテーション 第2 - 14週 各自の研究報告を中心とする演習 第15週 まとめ											
[履修要件]											
博士予備論文の審査に合格した者。											
[成績評価の方法・観点及び達成度]											
発表内容および出席により評価するが、ゼミの中での積極的な姿勢も考慮に入れる。											
[教科書]											
授業中に指示する											
[参考書等]											
(参考書) 授業中に紹介する											
[授業外学習(予習・復習)等]											
指導教員と相談して決める。											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

授業科目名 <英訳>	グローバル地域研究論課題研究 Guided Research on Global Area Studies I				担当者所属・ 職名・氏名	アジア・アフリカ地域研究研究科 指導教員					
配当 学年	1,2回生	単位数	2	開講年度・ 開講期	2017・ 通年不定	曜時限	その他	授業 形態	ゼミナール	使用 言語	日本語及び英語
[授業の概要・目的]											
博士予備論文の基礎となる個別課題に関する学生の研究内容について討議し、フィールドワークの視点と方法を練り上げるための演習。											
[到達目標]											
博士予備論文に関する基本的事項を理解する。											
[授業計画と内容]											
指導教員の3名が、学生の博士予備論文の進捗状況に合わせて、随時、個別演習をおこなう。											
[履修要件]											
博士予備論文審査にまだ合格していない者。											
[成績評価の方法・観点及び達成度]											
課題への積極的な取り組みとその達成度を評価する。											
[教科書]											
授業中に指示する											
[参考書等]											
(参考書) 授業中に紹介する											
[授業外学習(予習・復習)等]											
自らの研究テーマに沿った資料の収集, 分析											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

授業科目名 <英訳>	グローバル地域研究論課題研究 Guided Research on Global Area Studies II				担当者所属・ 職名・氏名	アジア・アフリカ地域研究研究科 指導教員					
配当 学年	3-5回生	単位数	2	開講年度・ 開講期	2017・ 通年不定	曜時限	その他	授業 形態	ゼミナール	使用 言語	日本語及び英語
[授業の概要・目的]											
博士論文の基礎となる個別課題に関する学生の研究内容について討議し、学際化と研究内容の深化を図るための演習。											
[到達目標]											
博士論文に関する基本的事項を理解する。											
[授業計画と内容]											
指導教員の3名が、学生の博士論文準備の進捗状況に合わせて、随時、個別演習をおこなう。											
[履修要件]											
博士予備論文審査に合格した者。											
[成績評価の方法・観点及び達成度]											
課題への積極的な取り組みとその達成度を評価する。											
[教科書]											
授業中に指示する											
[参考書等]											
(参考書) 授業中に紹介する											
[授業外学習(予習・復習)等]											
自らの研究テーマに沿った資料の収集, 分析											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

授業科目名 <英訳>	グローバル地域研究論課題研究 Guided Research on Global Area Studies III				担当者所属・ 職名・氏名	アジア・アフリカ地域研究研究科 指導教員					
配当 学年	3-5回生	単位数	2	開講年度・ 開講期	2017・ 通年不定	曜時限	その他	授業 形態	ゼミナール	使用 言語	日本語及び英語
[授業の概要・目的]											
博士論文の作成に向けて、そこで提起された個別課題に関する学生の研究内容について討議し、それをさらに総合化・深化させるための演習。											
[到達目標]											
博士論文に関する事項の理解を総合化・深化させる。											
[授業計画と内容]											
指導教員の3名が、学生の博士論文作成の進捗状況に合わせて、随時、個別演習をおこなう。											
[履修要件]											
博士予備論文審査に合格した者。											
[成績評価の方法・観点及び達成度]											
課題への積極的な取り組みとその達成度を評価する。											
[教科書]											
授業中に指示する											
[参考書等]											
(参考書) 授業中に紹介する											
[授業外学習(予習・復習)等]											
自らの研究テーマに沿った資料の収集, 分析											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

授業科目名 <英訳>	グローバル臨地演習 Global Area Studies On-site Seminar I				担当者所属・ 職名・氏名	アジア・アフリカ地域研究研究科 研究科教員					
配当 学年	1,2回生	単位数	2	開講年度・ 開講期	2017・ 通年不定	曜時限	その他	授業 形態	講義と実習	使用 言語	日本語
[授業の概要・目的]											
生態・社会・文化に根ざした地域の固有性を理解するとともに、地域が直面する現代的諸問題を研究課題として発見するためのフィールドワークの手法を習得する。											
[到達目標]											
フィールドワークに必要な基本的技法を身につける。											
[授業計画と内容]											
教員が、学生の臨地調査の進捗状況に合わせて、随時、個別に演習をおこなう。											
[履修要件]											
1年次に臨地教育を受けた者。											
[成績評価の方法・観点及び達成度]											
臨地調査への積極的な取り組みとその達成度を評価する。											
[教科書]											
授業中に指示する											
[参考書等]											
(参考書) 授業中に紹介する											
[授業外学習(予習・復習)等]											
自らの研究テーマに沿った資料の収集、分析											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

授業科目名 <英訳>	グローバル臨地演習 Global Area Studies On-site Seminar II				担当者所属・ 職名・氏名	アジア・アフリカ地域研究研究科 研究科教員					
配当 学年	2-5回生	単位数	2	開講年度・ 開講期	2017・ 通年不定	曜時限	その他	授業 形態	講義と実習	使用 言語	日本語
[授業の概要・目的]											
地域が直面する現代的諸問題を研究課題としてフィールドワークをおこなう手法を習得する。											
[到達目標]											
自らの研究テーマを発展させるための応用的なフィールドワーク手法を身につける。											
[授業計画と内容]											
教員が、学生の臨地調査の進捗状況に合わせて、随時、個別に演習をおこなう。											
[履修要件]											
2年次以降で博士予備論文提出前に臨地教育を受けた者。											
[成績評価の方法・観点及び達成度]											
臨地調査への積極的な取り組みとその達成度を評価する。											
[教科書]											
授業中に指示する											
[参考書等]											
(参考書) 授業中に紹介する											
[授業外学習(予習・復習)等]											
自らの研究テーマに沿った資料の収集、分析											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

授業科目名 <英訳>	グローバル臨地演習 Global Area Studies On-site Seminar III				担当者所属・ 職名・氏名	アジア・アフリカ地域研究研究科 研究科教員					
配当 学年	3-5回生	単位数	2	開講年度・ 開講期	2017・ 通年不定	曜時限	その他	授業 形態	講義と実習	使用 言語	日本語
[授業の概要・目的]											
フィールドワークの過程で発見された具体的な研究課題について、国際機関やNGO、研究機関等において研究発表や討論をおこなうとともに、必要に応じて研究課題に即した実践活動をおこなう。											
[到達目標]											
フィールドワークで得られた自らの知見について、英語あるいは現地語でプレゼン・議論できるようになる。											
[授業計画と内容]											
教員が、学生の臨地調査の進捗状況に合わせて、随時、個別に演習をおこなう。											
[履修要件]											
博士予備論文提出後に臨地教育を受けた者（インターンシップを含む）。ただし、博士予備論文提出後、その Semester 内に臨地教育を受けた者は臨地演習 の単位とする。											
[成績評価の方法・観点及び達成度]											
臨地調査への積極的な取り組みとその達成度を評価する。											
[教科書]											
授業中に指示する											
[参考書等]											
（参考書） 授業中に紹介する											
[授業外学習（予習・復習）等]											
自らの研究テーマに沿った資料の収集、分析											
（その他（オフィスアワー等））											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											